

仕事の都合で上海の研修はスキップさせて戴き、雲南省の研修だけに参加させて戴きました。中途参加という事もあり、短い研修期間の中で十分に皆様とのコミュニケーションが取れないまま、研修を終えてしまったような気がします。移動に次ぐ移動で、とても駆け足の研修でしたが、私の感想をまとめてみました。

混明ではイ族の村を、麗江ではナシ族の村を訪ねる事が出来ました。それぞれが民族衣装を着て出迎えてくださいましたが、観光用の作り物である所が見え隠れする部分もあったように思います。しかし、村で見た老婆や子供達の姿は、私の子供の頃の、あるいはもっと昔はそうであったであろう、日本の姿を彷彿とさせてくれました。車に乗らず歩くのが当たり前だった頃、マクドナルドではなく味噌を付けたおにぎりがおやつだった頃を。

研修とはいえ観光客に違いの無い私達ですから、現地の人々の対応もそうなるのは仕方のないことかもしれません。しかし、民族衣装が土産物屋の制服になっているような状況には、いささか失望しました。過去の研修で上海体育学院に滞在した際、何度か早朝の散歩を楽しみました。学院の庭で気功や太極拳をする人々、通勤や通学をする人々に、実際の中国の人々の姿を見ることが出来た様に思います。雲南省でもそんな時間が持てたら、また違った面を見ることが出来たのではないのでしょうか。言葉も殆ど理解できないのに、かなわぬ願いかもしれませんが、観光用ではない中国に触れてみたいと思っています。これからの養生学会の研修がそのような方向に進んでくださることを願っております。

麗江で誕生日を迎える事が出来たことは過去 53 回の誕生日の中でも非常に思い出に残るものとなりました。お仲間に加えていただいた養生学会の緒先生方に深く感謝致します。ありがとうございました。